

コミュニケーション力を育てる情報科の授業

聖母被昇天学院中学校高等学校
岡本 弘之

1. 研究の目的と背景

近年は生徒に必要な学力観について、暗記した知識をそのまま再生する「知識再生型」の学力ではなく、「PISA 型学力」「21 世紀型スキル」にみられるような知識を活用する能力やコミュニケーション能力が重視されるようになった。

平成 26 年度から始まった文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール」事業においても、その目的を「現代社会に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身につけ、将来国際的に活躍できるグローバル・リーダーを育成」とし、コミュニケーション能力や問題解決力といった知識活用型能力の育成を求めている。

本研究ではこれらの新しい学力観をふまえ、「伝える（表現する）」「話し合う（協同する）」というコミュニケーション力の育成をめざす情報科授業の開発と実践を行うことを目的とする。

2. 研究の方法

勤務校において高校 2 年時に設定された情報科の選択科目「選択情報（情報コミュニケーション）」2 単位を使い、コミュニケーション力を高めることを目的とした授業・カリキュラムの企画・開発を行い、2014 年度の 1 年間、授業実践を行う。実践中及び実践後、TT（ティーム・ティーチング）教員の授業観察、生徒自身へのアンケートでの振り返りにより評価を行い、効果を検証する。

3. 1 年間の実践の概要

3.1 1 年間のカリキュラム設計

勤務校では高校 1 年時に「社会と情報」2 単位を必修とし、基本的な知識や操作スキルはすでに身につけた状態での「選択情報」の選択となる。

学校設定科目「選択情報」の 1 年間のカリキュラム設計では、選択科目として開講していた「情報 C」の授業を参考に、「伝える」「話し合う」力を育てるプロジェクト学習を中心に、1 年間のカリキュラム・個々の実習を考えた。

「伝える」ことを学ぶプロジェクトとして、1 学期はポスター・インタビュー記事の制作、2 学期は静止画による CM・プレゼンテーション、3 学期は映像制作を課題とした。1 学期は文字と画像を組み合わせ、2 学期はこれに音楽を加え、3 学期は動画と、1 年間で多くの「伝える」方法を経験し、学期がすすむにつれて表現方法がより高度になるよう配置した。

表 1 1 年間の「伝える」課題

①画像と文字で伝える「ポスター制作」
②文章と写真で伝える「記事制作」
③標語で伝える「標語制作」
④画像・文字・音楽で伝える「CM制作」
⑤プレゼンテーションで伝える
⑥動画で伝える「学校紹介映像制作」

もう一つの目標「話し合う」ことについては、座学や制作課題において、グループワークを多く取り入れた。グループワークにおいては、付箋・KJ 法・ブレインストーミングの技法も取り入れ、「話し合う」方法も体験的にも学ぶこととした。これらの視点から年度当初に企画したカリキ

ユラムは以下のとおりである。

表2 選択情報の年間計画

学期	授業項目
1 学期	①復習:時間割の制作 Word を使って時間割表の制作
	②身の回りの情報を考えよう(グループ) 情報の信頼性・情報源の特徴を考えさせる実習
	③デジタルと情報量の単位を学ぼう デジタルの特徴・情報量の単位を学ぶ
	④イメージポスターを作ろう Photoshop で画像を加工し、ポスターを制作する
	⑤取材して記事を書こう 人に取材して雑誌記事ふうにとまとめる
	⑥SNS の賢い利用・活用を考えよう(グループ) 経験・話し合いから SNS の利用を学ぶ
	⑥-2 ネットの安全利用の標語を作ろう ⑥で考えたことを標語で表現しコンクールに応募
2 学期	⑦情報発信をめぐる問題を考えよう(グループ) 不適切投稿問題から情報発信を考える
	⑧CMを研究しよう TVCM を選び分析し、発表する
	⑨CMを制作しよう Powerpoint のオートスライドでCM を制作
	⑩著作権を考えよう ⑨を公開すると仮定して、著作権を学ぶ
	⑪学校施設の改善案を考えよう(グループ) 問題解決実習として調査・分析・プレゼンを行う
3 学期	⑫学校紹介映像を作ろう(グループ) 企画・撮影・編集を行い短い紹介映像を作る
	⑬メディアリテラシーを考えよう ⑫の経験からTVなど映像の特性を考える
	⑭私のメディア史を作ろう 今まで関わってきたメディアと影響を考える

表中に下線部が「伝える」制作課題、(グループ)と書いたものはグループワークを主にした課題となる。小さなグループワークについてはこれ以

外の座学の課題(⑬⑭)でも取り入れ、年間のほとんどの授業テーマで「伝える」「話し合う」ことを取り入れた内容とした。

3.2 授業の概要

「伝える」「話し合う」ことを重視した個別の授業実践について、2つの授業の流れ・生徒の制作物を紹介する。

3.2.1 「⑥SNSの賢い利用・活用を考えよう」

授業3コマを用いたSNS(ソーシャルネットワークサービス)の利用についての利点・課題を自分たちの経験から話し合い、最終的には効果的な活用を話し合う授業である。

1時間目にインターネット上のコミュニケーションの特徴・変化について学んだあと、2時間目のSNSの注意する点・便利な点について話し合う実習を行う。自分の経験からの意見だけでなく調べたことも付箋に記入させ、この付箋をもとに4人ずつのグループで、注意する点・便利な点を、KJ法の手法で項目を整理し、まとめる。そしてまとめたものをクラスの中で1分程度で発表する。

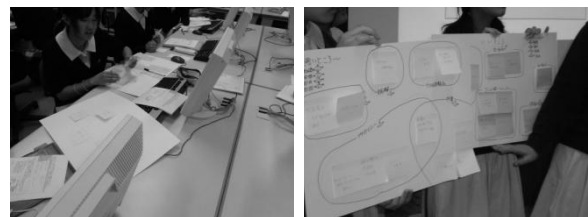


図1-2 生徒がKJ法で作成した用紙・風景(2013)

3時間目の活用について話し合いでは、「学校が公式ブログ・SNSページを作った場合、どのような情報を発信すればいいか」というテーマで、ターゲット別にどんな情報を発信すればよいか、ブレインストーミングの手法でアイデアを出し、後半は付箋とKJ法を使ってアイデアを整理させた。

これら3時間でSNSの課題・活用を話し合いの中で学び、次の「⑥-2 ネットの安全利用の標語を作ろう」の授業で、「標語」という手段で注意点・活用方法を「伝える」実習へとつなげた。

「そこにいる君は本物？気をつけて！」

(IPA 情報セキュリティ標語コンクール受賞作品)

図3 生徒が制作した標語の例 (2013)

3.2.2 「⑩学校施設の改善案を考えよう！」

授業6コマを使った問題解決のプロジェクト学習である。最初の問題発見、解決提案制作については「話し合う」、そして自分たちの提案を説得力をつけてプレゼンテーションで「伝える」ことを目標とした課題である。テーマについては生徒にとって身近な「学校の施設改善」と設定した。

1時間目で「学校施設の課題なところ」を「安全・環境・バリアフリー・豊か」という視点から問題発見の作業をさせた。これら問題点を付箋とKJ法を使いグループでの話し合いで整理、1分程度でクラス内で発表させた。

2時間目は、1時間目の問題発見をもとにその解決案を検討する。前半はブレインストーミングで拡散的に多くのアイデアを考え、後半は収束的に実現性もふまえて一つの提案に絞らせた。

3・4・5時間目は自分たちの提案に説得力を持たせるために、現地調査、再現動画の制作、アンケート、他校の事例・費用の調査など行い、スライドにまとめる作業を行った。

プレゼンテーションで「伝える」ことについては、発表とプレゼンテーションの違いについて説明し、自分の調べたことを一方的に発表するのではなく相手に提案を導入するメリットを感じてもらえるよう、根拠・説得力を持った内容とすることを繰り返し説明した。

6時間目にプレゼンテーション・相互評価・教員評価を行った。発表終了後、教員から各発表についての良い点・課題点について説明し、これをふまえて各自改善点と考察を書かせて提出をさせた。

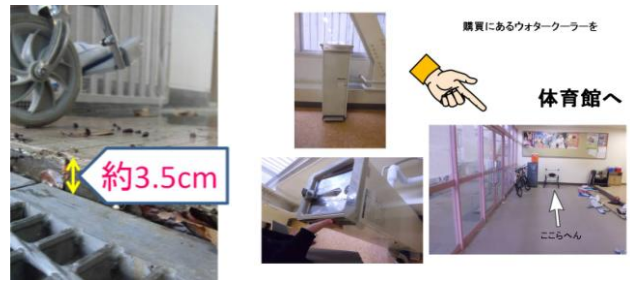


図4 生徒の問題指摘 (A5班)・図5 提案スライド (B1班)

4. 授業の効果

4.1 授業の様子

「話し合う」ことについて、1年間の授業の中で付箋、KJ法、ブレインストーミングといった方法を繰り返し用いた。高校1年時のこれらの手法を用いない話し合いは、一つのアイデアが出たら「これでいいやん」と話し合いが広がらなかったり、意見を言える生徒だけの意見が通ったりと、話し合いに広がりを持てなかった。

今年度、付箋・KJ法・ブレインストーミングなどの手法を使った話し合いを繰り返す中で、全員が意見を出し、多くの意見からそれを整理し、最適な案を選択する場面が増え、「話し合い」の量・質ともに向上がみられた。



図6 グループワークの授業風景

「伝える」ことにおいても、「自分が伝えることを伝える」一方的な段階から、後半は「ターゲットは〇〇だから」との発言も見られ、相手を意識し「伝わる」ことを意識して制作する様子が見られた。制作物・発表においても、これらを意識した内容へと向上が見られた。

4.2 生徒の授業アンケートから

2月初旬に生徒に「伝える」力、「話し合う」力が身に着いたかというアンケートをとり、結果を集約したものが以下のグラフである。

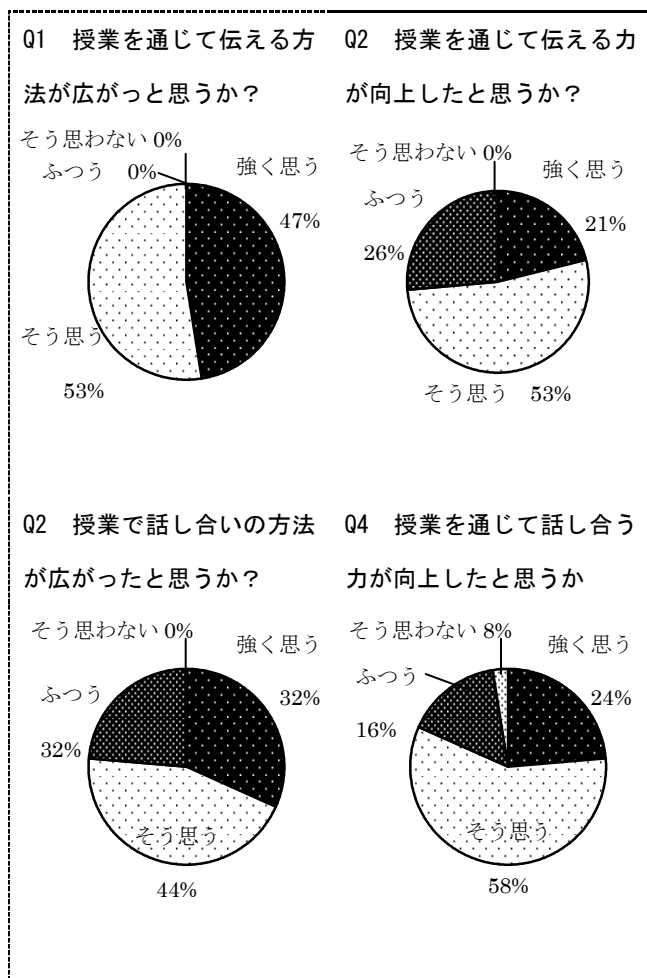


図7 生徒のアンケート結果 (40名中38名回答)

これらアンケート結果から見ると、1年間の授業を通じ、「伝える」「話し合う」ことを多く経験し自分の中でその方法を広げ、8割以上の生徒がそれぞれの力が向上したと回答している。

自由記述を見ると「話し合うことが普段ないので、他人の意見も聞いて参考になった(複数)」、「ターゲットを意識したり、伝える際に必要なことが理解できた」といった肯定的な記述がほとんどで、「大学や社会で役に立つ勉強と思った(複数)」といった視点での肯定的な意見もあった。

4.3 他の授業・生徒会活動への波及

今年度フランス語の授業との連携を行い、高校

フランスの姉妹校との交流で、初めて映像制作による交流を行った。昨年度の授業における映像制作の企画の手順、スキルを用い、学校行事を紹介する映像を制作し、姉妹校からも好評であった。

生徒会活動でも映像を利用した表現が増えることとなった。体育祭でのルール説明、生徒会執行部による募金呼びかけなど、従来は口頭の説明だったものが映像を制作しての説明が増えた。とくに体育祭のルール説明は映像を見ることで併設校の中学生でもわかりやすく好評であった。

5. 考察とまとめ

コミュニケーション力の向上を目指した1年間の実践は、生徒の「伝える(表現する)」「話し合う(協同する)」力を向上させ、生徒自身のその力の向上を意識できる結果となった。またこれらの力の向上により、生徒会活動での伝える場面での方法選択や、他教科の授業での国際交流などの変容など、科目の枠を超えてその効果が広がることとなった。生徒の自由記述にみられる通り、大学や社会でもこれらの力が役に立つことを確信し、次年度以降、今回作成したカリキュラム・授業を実践しながら、改善を重ねていきたい。

最後に本研究で作成した授業プリント、スライドについて筆者 Web「情報科の授業アイデア」(<http://www.okamon.jp>)ですべて公開している。広くご活用いただければ幸いである。

参考文献

- 1) 国立教育政策研究所報告書「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」2013年3月
- 2) 文部科学省「平成27年度スーパーグローバルハイスクール公募要項」(http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/sgbh/1354611.htm)
- 3) 岡本弘之「話し合う情報モラルの授業」第6回全国高等学校情報教育研究会京都大会要項 pp.48-49 2013年8月
- 4) 岡本弘之「情報社会と問題解決を授業する」日本文教出版「ICT・Education」No.50, pp.20-23 2013年4月